

9. 二枚貝資源緊急増殖対策委託事業

塚原淳一郎・岩永俊介

諫早湾におけるタイラギ親貝の分布状況の把握と種苗生産を目的とした親貝の育成方法を検討する。

方法

分布調査 諫早湾内の干潟域を対象に、関係の漁業協同組合や漁業者からの聞き取り情報を基に、図1に示す5地点を選び、7、8月および12月に大潮の干出時に踏査による分布確認と確認されたタイラギの殻高を計測した。

親貝育成試験 供試個体は、平均殻長23.3cm、平均重量286gの10個体（雄3個体、雌5個体、不明2個体）を用いた。育成は、真珠養殖用のポケット籠を用い、6月に諫早湾内の海面筏の水深約2mに垂下した。

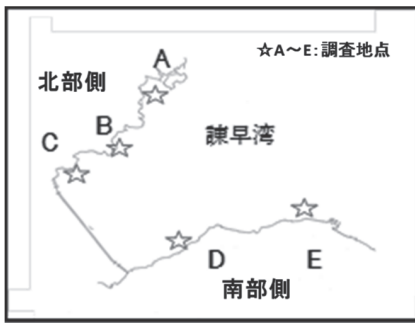


図1 分布調査位置図

結果

分布調査 4月の予備調査では、諫早湾北部側のA～Cの3地点でそれぞれ27個、4個および1個が確認された。7、8月では、それぞれ1個、19個、1個体の計21個が確認された。平均殻高は8.6cmで、殻高と殻長関係から平均殻長は約20cmと推定された。また、B地点の19個体は約400m²の範囲に点在していた。諫早湾南部側のD、Eの2地点では、それぞれ8個と1個の合計9個体が確認された。平均殻高は6.3cmで、平均殻長は約15cmと推定された。また、D地点の8個は約300m²の範囲に点在していた。12月では、D地点および新たな分布情報があつたD地点近隣を広く調査した結果、それ

ぞれ37個と58個が確認された。D地点の平均殻長と重量は、約18cmおよび150gであつた（図2）。

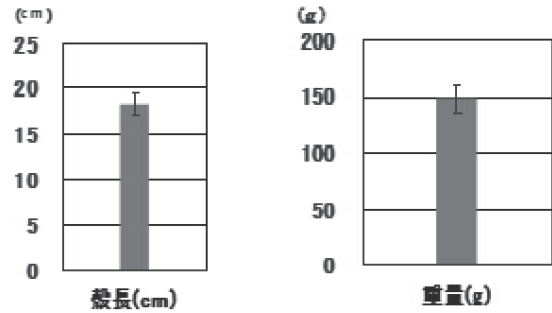


図2 12月にD地点で採取したタイラギの平均殻長および平均重量

親貝育成試験 海面筏に垂下したタイラギは、7月7日には全数生存していたが、7月11日に6個体（雌3個、雄1個、不明2個）の斃死が確認された。降雨による海水の低塩分が原因と考えられ、生残貝を水産試験場の栈橋筏に移動した。4個体の殻長と重量は、それぞれ23.1cm、347gで、試験開始時の1.02倍および1.31倍に成長した。その後、栈橋筏で3個体（雌2個体、雄1個体）が斃死し、残った1個体（雄）を7月22日に諫早湾の海面筏に戻して試験を再開した。9月5日の殻長と重量は、それぞれ21.3cmおよび186gで、精巣部が確認された。試験開始時の21.2cmおよび327gと比べ重量の減少が大きく、成熟末期状態と判断された。

まとめ

- 1) 干潟域では、タイラギ親貝の分布が確認され、親貝の育成や供給場所として干潟の活用を検討していく必要がある。
- 2) 諫早湾における海面筏での育成試験では、体重の増加が認められたが、梅雨時期の低塩分による斃死対策が今後の課題である。

(担当：塚原)